

【中区】令和 7 年第 2 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 7 年 6 月 10 日 午後 3 時 00 分 ~ 午後 4 時 00 分
場 所	中区役所 7 階 703 会議室・704 会議室
出席者	<p>【座長】伊波俊之助議員</p> <p>【議員：2名】松本研議員、福島直子議員</p> <p>【中区：25名】永井由香区長、梶原豊副区長、 市川英毅福祉保健センター長、原田正俊福祉保健センター担当部長、 青木隆浩中土木事務所長、田邊栄久中消防署長 ほか関係職員</p>
議題	<p>議題 1 令和 7 年度中区個性ある区づくり推進費自主企画事業執行計画 について</p> <p>議題 2 その他</p>
発言の要旨	<p>議題 1 令和 7 年度中区個性ある区づくり推進費自主企画事業執行計画 について</p> <p>福島議員：「地域防災力向上事業」ですが、区役所としても区長としても力を入れていただけるということで、その中のマンション防災アドバイザー派遣ですが、マンションの管理組合や居住者の方自身が自覚を持って取り組み始めないことには何事も始まりませんが、もう一步、何かマンションごとへの情報提供と申しましょうか。例えばアドバイザーを派遣しますということを各居住者やマンション管理組合にどのように周知すると考えているか、伺いたいのですがいかがでしょうか。</p> <p>大木総務課長：マンション防災アドバイザー派遣につきましては、昨年度から実施している事業でございますが、周知について力を入れていきたいと思っております。昨年度は、防災について広報よこはまに記事を出していたのですが、マンション防災アドバイザー派遣の御案内はしていませんでした。今年度は、共同住宅の防災に特化した特集記事を広報よこはまの 8 月号に掲載し、昨年度行ったマンション防災アドバイザーの利用者のお声などを反映させて、周知をしていければと思っています。</p> <p>福島議員：今時は色々なツールがありますので、力を入れていただきたい</p>

です。気にしている人はいると思うのですが、そういう方に限って広報よこはまを読まなかったりすることもあるようですので、考えていただけたらと思っております。

永井区長：広報よこはまはもちろんですが、建築局で用意しているマンションの管理組合データベースがございまして、中区内 569 件の管理組合がございますので、そちらに郵送で御案内もしております。今年もしっかりと行って参りたいと思っております。

福島議員：中区も多様な地域がありまして、中心部の方では、恐らく東日本大震災では停電などあまり起きなかつたので、何か相当大きな災害がない限り、耐震化も進んでいるので、けっこう守られるのかなとは思うものの、一方で、住宅街などではどういう被害が発生するか分からぬところがあります。能登の状況などを拝見したときに、避難生活が長期化する場合には、洗濯や入浴等の支援が必要になる実態を見ました。今、お風呂屋さんも減っている状況がありますので、中区においてもそうした洗濯や入浴等の、暮らしに直結した支援というのも想定して、どういうふうに支援ができるのか考えておかなければいけないと思います。ようやく TKB ということで準備が進むところではあるのですが、それに加えて洗濯や入浴等の支援も想定しないといけないと思っていたところでございます。

続きまして、14 ページの「地域包括ケアシステム推進事業」ですが、認知症になっても暮らし続けられるようにということで、昨今、「スローショッピング」という取組をしている地域もあります。これも連合町内会単位で工夫して取り組むべきこと、また、地域ケアプラザで取り組んでいただくことかと思うのですが、日常のお買物がしづらくなった方に対する支援ということで、スローショッピングというものを通じて日常生活をなるべく長く維持するという流れがございます。中区としては何か計画があるか確認したいと思いました。

品田高齢・障害支援係長：スローショッピングという名前自体が不勉強で、これから勉強していきたいと思うのですが、地域によっては、そのような買物をしやすくなるような支援に取り組んでいるということも伺っております。買物が難しくなった方たちへの支援を各地域に広げていけるように啓発していければと思います。

福島議員：関連して、地域交通の支援を横浜市としては力を入れていくわけですけれども、中区の場合、交通空白地があることはあるのだけれど

も、「中区はどうなんですか」と聞いたら、「中区は後回しです」みたいな明解な答えが出てきまして、「えーっ」という感じなのです。本当に公共交通がなくて、道路も狭あいだったりして、高齢化が進む中では皆さん苦労されているところがあります。スローショッピングとの絡みもあるのですが、中区で何としても、地域交通が今後どうあるべきかということは考えていかないといけないのかなと思います。中区のど真ん中に住んでいて、驚くほど不便なところもありますので、住所からでは分からぬ不便さというのをしっかりと私たちも細かく目配りをして、下手をしたら孤立してしまうぐらいの方もいらっしゃるし、単身生活者も非常に増えている状況なので、交通やお出かけの支援と、その日常生活という視点で、区レベルであれば分かることということを、しっかりと取り組むべきではないのかと思っております。こうしたことはどなたが担当してくださるのでしょうか。

永井区長：都市整備局で進めている横浜市地域交通サポート事業には条件がありまして、その条件によると確かに中区はほとんどないというようなデータになっており、他の区をまずは重点的にという説明を受けております。ただ、私も地域に行かせていただいている中で、「バスは入ってこれないし、皆さんどうしてるんだろう」と思うような地域もたくさんございますので、先ほどおっしゃっていただいた買物のシステムといったものと併せて、どの地域がどのような状況なのかは区の視点でしっかりと把握してまいりたいと思います。その後、局にもしっかりと伝えていきたいと思っております。

福島議員：視覚障害の方もいらっしゃいますし、個々に支援制度を使ってはいらっしゃるのですが、相当苦労されているなというのが実感できますので、もう一度私どもも、しっかりと皆さんとつながって、どういうお困りが実際にあるのかということをしっかりと把握して、中区らしいサービスが展開できれば良いと考えているところでございます。

最後に、30ページの「区制100周年（2027）記念事業」の絡みですけれども、私としては、大変に繁華街が多い区ですので、また、住宅街であっても案外、不法投棄とかがありまして、まちの美化はこれからもずっと大事な地域のテーマだろうと思っています。なので、100周年美化運動ということで、この間もごみ拾いイベントをやりましたけれども、イベント的にやることも大事だし、地域やグループで行っていこうという気運を大事にしていただいて、例えば100周年記念美化運動ののぼり

でも作って、のぼりを掲げながら皆でやってみるとかですね。予算が200万しかないなというふうに見ていたのですが、何かそのようなことをやり、皆で100周年をアピールするとともに、まちが実際にきれいになつたり、色々な課題が新たに見えてくるような取組をしてはどうかと思っていましたので、申し上げました。以上でございます。

松本議員：7ページの「みらい環境育成事業」で、外国人向けの分別説明会を3回予定しているということなのですが、色々とまちの人にお話を伺うと、文化の違いなのでしょうね、ごみ出しのルールについて「横浜のルールはこうですよ」と言っても、「自分たちの国ではそんなことはしてない」と、なかなか協力をいただけない方がいると。そうすると町内会としては、例えばそうした方が少数であっても、「外国人はみんな馴目よ」という気持ちになってしまふので、是非、外国人の方々にごみ出しのルールについて理解をいただかないといけないのかなと思うのですが、こういう具体的なごみの出し方以外に、どのような注意喚起を行っているのですか。

金田資源化推進担当課長：外国人向けの啓発については、まず多言語リーフレットを多種用意しております。それを問題のあった地域には投函しています。おっしゃるように、ごみの分別をしていただけない方に直接訴えかけるのが一番なのですが、なかなか会えないことも多々ございます。ただ、中事務所としては、機動力を持っており、啓発担当の職員も備えておりますので、問題のあった地域がございましたら、直接会うまで粘り強く交渉しております。いざ会ったときに外国の方もしっかりと話せば、ある程度御理解はいただいている状況なので、そういう地域がございましたら、資源循環局中事務所まで御連絡いただければ、しっかりと対応させていただきます。

松本議員：町内で外国人の方々が狭いアパートに10人とかで住んでいらっしゃって、窓からごみを捨てているという地域もあつたりして、なかなか難しいのですが、街の人が直接そういう方の住んでいるところへ行って「迷惑かけているから直してよ」と言っても、日本語すら通じない方々なので、資源循環局だけでなく区でも外国語の分かる方を同行したりして、ごみ出しのルールを理解していただくことを進めていただければと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

8ページですが、「初黄・日ノ出町地域再生まちづくり事業」の地域活動を支える運営組織の強化で、黄金町のエリアマネジメントということ

で、永井区長の得意の分野で、毎年、にぎわいスポーツ文化局からも支援いただいていると思うのですが、色々話を伺うと、クリエイターへの支援というのはまだまだ足りないのだということなのですが、例えば、それがにぎわいスポーツ文化局の支援で足りない部分を中区で別途、何か支援するような方策があるのか、区長のお考えを教えてほしいと思います。

永井区長：この地域は行政が少しでも手を抜くとまた元に戻ってしまうところがあつて、都市整備局、にぎわいスポーツ文化局、市民局、区役所と、本当に一緒になって取り組んでいるところでございます。今までの役割分担で申し上げますと、区役所は環境浄化推進協議会への運営支援を行い、クリエイター、アーティストへの支援は、にぎわいスポーツ文化局が行っているのですが、協議会を通じて色々な側面で一緒に行わせていただいております。今回新しく子どもたちが一緒に遊べるスペースができたりもしていますので、地域の皆様と一緒に御支援をしていきたいと思っております。

松本議員：クリエイターの方々が、あそこで店舗を出していて、それが実際生活の糧にならないと意味がないと思うので、ああいったスペースがもっともっと有効に活用できるように、中区として環境浄化という部分だけでなく、クリエイターの養成という部分にも是非お力添えをいただければと思います。よろしくお願ひします。

13ページの「みんなの健康づくり事業」で新規事業としてナイトウォーキングイベントを9月19日の金曜日に行うということですが、これは、インターネットなどで不特定多数の方を募集するのか、もしくは中区内の子育て世代のグループ等、ある程度対象を決めてらっしゃるのでしょうか。

倉田福祉保健課長：ナイトウォーキングイベントについてですが、中区在勤者をメインターゲットに、SNSや広報よこはま等で参加者を広く募る予定です。そして、魅力ある景色をはじめ、中区の観光資源を存分に活用してコースを組み立てようと、今、まさに企画中でございます。

松本議員：まだ中区に移り住んで間もない人たちが、「中区っていいな」と魅力を感じてもらえるようなコースを是非つくっていただきたい、また、ただ歩くだけでなく、せっかく参加していただけるのであれば、そこでコミュニティを作ることができるような取組をしていただきたいと思います。これは参加費も当然取るのでしょうか。

倉田福祉保健課長：実費程度で調整しており、高い参加費は取りません。

松本議員：これが好評であれば、より多くの方々が参加できるイベントにしていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

倉田福祉保健課長：参加者同士のコミュニティ作りも意識して、企画してまいります。

松本議員：高齢者の方の買物支援について、例えば、西竹之丸の自治会は町内の人たちが週に1回等と日にちを決めて車を出し、お買物に連れて行くということをやってらっしゃるのですが、中区で、地域に応じた支援だとかは可能なのでしょうか。

品田高齢・障害支援課長：買物サロン的なお話と、先ほどのスローショッピングなどの買い物支援の兼ね合いだと思うのですが、今、自治会町内会単位で行つていただいているところはあると思います。必要なニーズと、それに対してどのように補助をするかというところは、今後整理していくかなくてはいけないと思います。まずはそういう取組が各地域で行われていることを、広く皆さんに知つていただければと思っています。

松本議員：「こういうことをやっているよ」という町内会と、御存じない町内会もあると思います。山元町や本牧も交通が不便なので、地域の中でそういう買物支援ができる仕組みを、是非皆さんに紹介をしていただいて、できるところは地域でやつていただくという取組を是非していただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

23ページの「みんながつながる地域づくり事業」の地域のにぎわい・つながりづくりのための補助制度は、具体的にどういう賑わいづくりの活動をされているのかを教えていただけますか。

阿部地域振興課長：昨年度の実績ですと、例えば地域の小中高生を中心としたコンサートの開催を第三地区でやっています。新本牧地区では本牧ライトアップ、自転車安全教室、住吉町では地域のお祭りといったように、地域を盛り上げていく様々な企画を自治会町内会様中心に企画をしていただき、補助金を交付している状況です。

松本議員：交流づくりをしていくというのは大切なのですが、外国の方とか、地域のイベントに参加されてない方々、こうした方々に参加していただけるような誘導をしていただくと、メリットが出てくるのかなと思います。中区在住の外国籍の方だけでなく、日本語学校の生徒さんなども極力参加いただけるような働きかけをしていただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

伊波議員：6ページの「交通安全啓発・放置自転車対策事業」です。現在、自転車がヘルメット着用の努力義務化等々ある中で、道路局が作っているサイクルルールブックを職員の皆さんは見たことがありますか。すごく良いものを作っているのですが、宣伝がちょっと上手くない感じで、せっかく作ったものを広く市民・区民の皆さんに知ってもらうことがすごく大事です。それと、こうしたものを区の職員の皆さんにも共有をしていただきたいと思います。同時に、ここに記載の保護者向け交通ルール啓発リーフレットの配布がものすごく大事だと思っているのですが、この交通ルール啓発リーフレットというのは今言った道路局の作っているサイクルルールブックなのか、その点をお聞きしたいと思います。

阿部地域振興課長：保護者向けにはサイクルルールブックではなく、道路局が作成しているこちらの交通ルール啓発リーフレットを配布しており、昨年の実績で保育園と幼稚園を中心に大体4,000部ほど配布してございます。

伊波議員：どうしても登園時間はものすごくスピードを出していて、そうしたときに交通ルールを無視した形で走ってしまうと、とんでもない事故が起きてしまうと感じています。区民の命を守っていくということも皆さんのお仕事の大変な部分であると思いますので、私たちもそういう取組を応援していきますので、是非、啓蒙活動を進めていただきたいと思っております。

それと、「みらい環境育成事業」に外国人向けの分別説明会を実施とあるのですが、教育的な観点も必要だと思っています。中区には御承知のように、外国の学校があります。学校で子どもたちが習うと家でもお話しすると思います。資源循環局でも横浜インターナショナルスクールで説明会をしていただいたりしていると思うのですが、外国語学校でのごみの出張講座は、現状どのような状況でしょうか。

金田資源化推進担当課長：資源循環局の横浜インターナショナルスクールでのごみの分別説明会の実施状況は、現在、手元にデータがございません。中事務所では、6月は毎週のように依頼のあった小学校で啓発の出張説明会を行っている状況でございます。多いのは小学校と保育園で、私立からもお声がかかっている状況です。外国語学校については、行政が分別の出張講座を実施しているとご存じないこともあるかと思いますので、場合によっては我々からアプローチをして宣伝していくのも良いのかなと考えております。

伊波議員：資源循環局と連携していただきたいと思いますので、よろしくお願いします。それから、商工会議所の会員企業の中で外国人を雇っている企業とか、そうしたところで日本のルールを知っていただく講座があつても良いのかなと感じますので、御検討いただければと思います。

それと、16 ページの「みんなで子育て事業」で母子手帳交付時の説明動画について英語と中国語の外国語版作成とありますが、19 ページの「多文化共生推進事業」の多言語広報紙発行事業も含めて、韓国語がありません。何故韓国語がないのか知りたいです。

稲葉こども家庭支援課長：母子手帳交付で外国人の方が 70 人程度いるのですが、そのうちの約半分の 35 人程が中国の方です。あとはタイの方やフィリピンの方など色々な国の方がまばらにいらっしゃる状況なので、英語と中国語にさせていただいております。

伊波議員：韓国の方はあまりいらっしゃらないですか。

稲葉こども家庭支援課長：韓国の方への交付は多くない状況です。

伊波議員：19 ページの「多言語の広報誌発行事業」はいかがでしょうか。韓国の総領事館という 24 時間警護が付いている立派な建物が中区にあるということと、福富町で盛んに韓國のお祭りがされているので、そういう中区だからこそ韓国語のものがあつても良いのかなと感じるのですが、その点はいかがでしょうか。

宮里区政推進課長：多言語広報誌に関しましては現在、英語と中国語で作成しておりますが、国際交流ラウンジにヒアリングしましたところ、御相談で多いのが英語と中国語だと伺っております。韓国語のニーズにつきまして私どももまだ確認中でございますが、今後、言語の拡大については検討させていただきます。

伊波議員：22 ページの「自治会町内会活動支援事業」の学生連携事業で、参加している関東学院の学生さんからアイディアだとか提案だとかは挙がってきたりしているのでしょうか。

阿部地域振興課長：関東学院大学の地域創生学科と連携した取組は、ここ何年か行ってございまして、学生からは様々なお声をいただいております。毎年 12 月に発表会を行っており、学生から気づきや感じたこと等を御報告いただいております。例えば、子どもたちを対象とした企画については、おのずと親世代も行事に関わってくるということもあるので、学生の立場から考えても非常に有効な取組であるというお話があつたりします。それから、大人世代の方々については、なかなか社会に積

極的に参画しない方々も一定数いるということなので、そうした方々が興味を持つような講演、交流イベントみたいな切り口が有効ではないかというお声をいただいている。そういうものを私どもの事業、地域を元気にしていく施策の中に反映できればと考えております。

伊波議員：学生の視点には、私たちが気づかないものがすごくあると思いますので、是非吸い上げていただきたいと思います。

31 ページの「GREEN×EXPO 2027 向けた脱炭素チャレンジ事業」のチューリップであふれるまち事業ですが、幼稚園や保育園への配布活動というのは予定があるのでしょうか。

宮里区政推進課長：配布については町内会を中心に考えておりますが、町内会で地域の方と一緒に花植えイベントをしてくださるということで、お子様が参加するものもあると聞いております。また、9ページの中土木事務所所管の事業で、お子様向け種まきイベント等も行っております。

伊波議員：チューリップって何色が咲くのかなとか、球根を逆に植えちゃったというのがあって、そんなのもまた子どもたちらしいのですが、子どもたちが通っている園で自ら植えるというのかな、球根から花が出てくるまでの部分を感じるということがこの GREEN×EXPO 2027 につながると良いと思っています。その点、区長いかがでしょうか。

永井区長：中区の花もチューリップということで、成長がとても分かりやすいお花だと思いますので、GREEN×EXPO 2027 向けでどういった啓発活動を子どもたちと一緒に考えられるか、これから色々と企画をしていくと思っていたところですので、今の先生のアドバイスもいただきながら考えていきたいと思っております。

伊波議員：最後ですが、どのようにお客様を呼ぶかといったこと等について、にぎわいスポーツ文化局や様々なところで活動されてきた永井区長が着任をされて、中区は言うまでもなく、横浜の玄関でありますし、お客様をお迎えするところだと私は思っています。横浜 18 区の中で、中区、西区で楽しい思い出をつくっていかれる中で、4月から公園が全て禁煙化になっています。山下公園だとかそうした大きなイベントについては喫煙所を設けるなど、その喫煙所についても様々なルールがございますけれども、たばこ税というのは大体年間 220 億だとか、そういう金額が横浜に入ってきます。たばこの単価も当然上がっていますが、横浜市の厳しい税収の中できっちりとその立ち位置があるこのたばこ税

	<p>であります。宝くじが大体 80 億ぐらい入ってきていますけども、インバウンドも含めてお客様をお迎えする中で、中区がどういう形で吸う人と吸わない人をうまく棲み分けていくか、僕はある意味、実証実験ができる場所だと思っています。中区でまず試験的に行い、その結果をもつて全市展開していく。ぜひともそういった視点で何とか取り組んでいただきたいと、要望させていただきます。よろしくお願ひします。</p> <p>議題 2 その他</p> <p>伊波議員：次に議題の 2 のその他ですが、皆様から何かご発言はござりますか。特にないようでございますので、本日の議題は全て終了いたしました。</p>
備 考	